

# 1-1.地理・地勢

## (1)地理・地勢

本市は、県の中央部に位置し、県都として、日本海側有数の中核都市として発展してきました。

旧富山市は、平成8年に中核市の指定を受け、平成17年4月には、旧富山市、旧大沢野町、旧大山町、旧八尾町、旧婦中町、旧山田村、旧細入村が合併し、新「富山市」となりました。

市域は、東西60km、南北43km、面積1,241.70km<sup>2</sup>となっており、富山県の約3割を占めるほか、国内においても最大級の面積の市となっています。

また、海拔0m(富山湾)から2,986m(水晶岳)までの多様な地形を有し、河川の上流・水源地域から下流までが一体となった都市となっています。

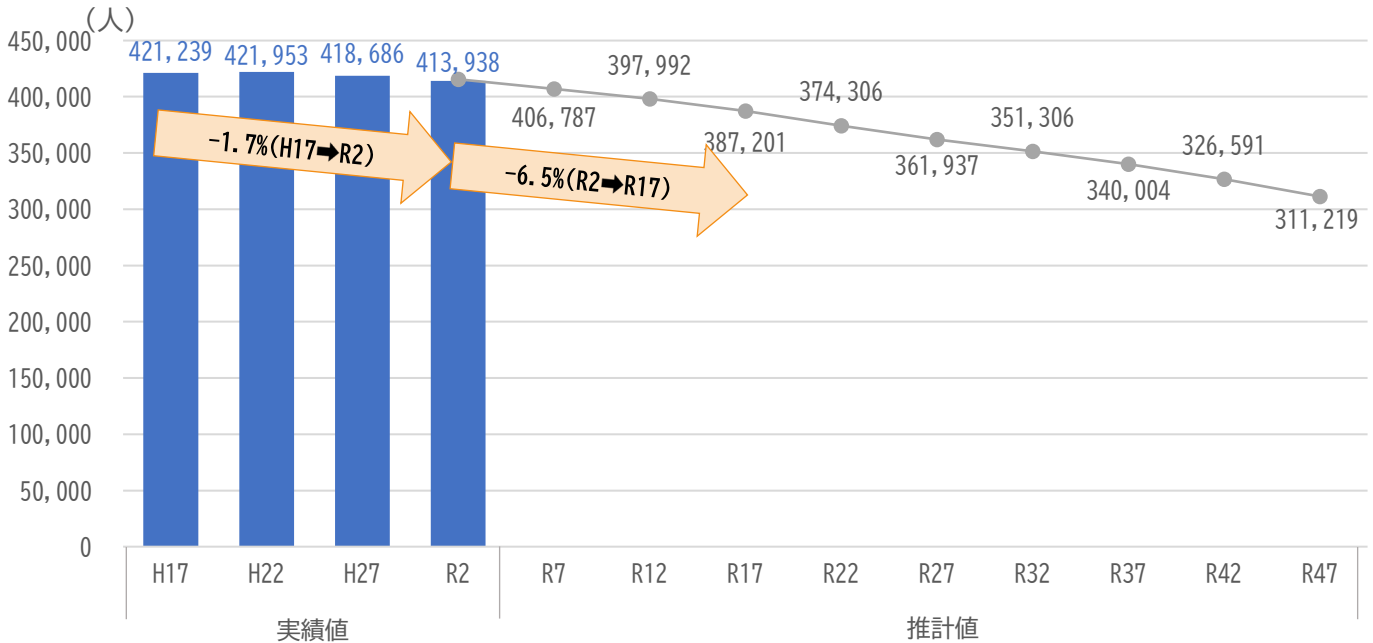


# 1-2.市街地の特性

## (1)人口

人口は、平成22年をピークに減少に転じ、平成17年から令和2年の15年間で1.7%減少しています。令和2年から令和17年の15年間では更に減少割合が増加し、6.5%の減少(2.7万人程度)が見込まれます。

### 人口の推移

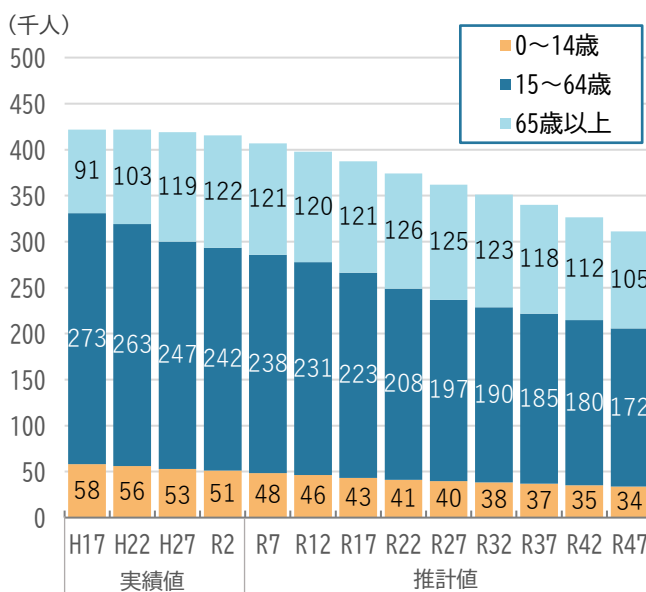


出典:国勢調査(R2)、推計値:富山市将来人口推計報告書(R1)

年齢別人口は、0~14歳及び15~64歳が減少している一方、高齢者(65歳以上)は増加しています。この傾向は、令和22年頃まで継続することが見込まれています。

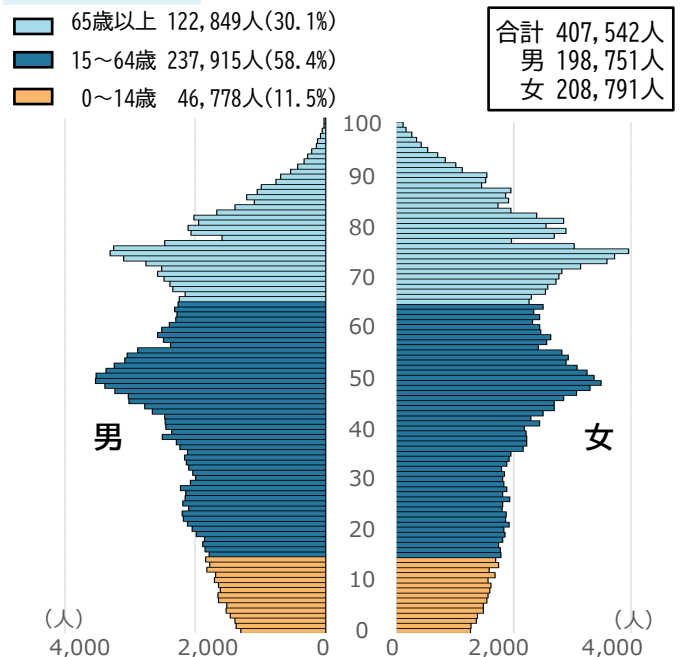
当面は、団塊ジュニア世代の高齢化に伴い、高齢者の人口が増加し、若い世代の人口の減少が顕著となることが予想されています。

### 年齢別人口の推移



出典:国勢調査(R2)、推計値:富山市将来人口推計報告書(R1)

### 年齢別人口

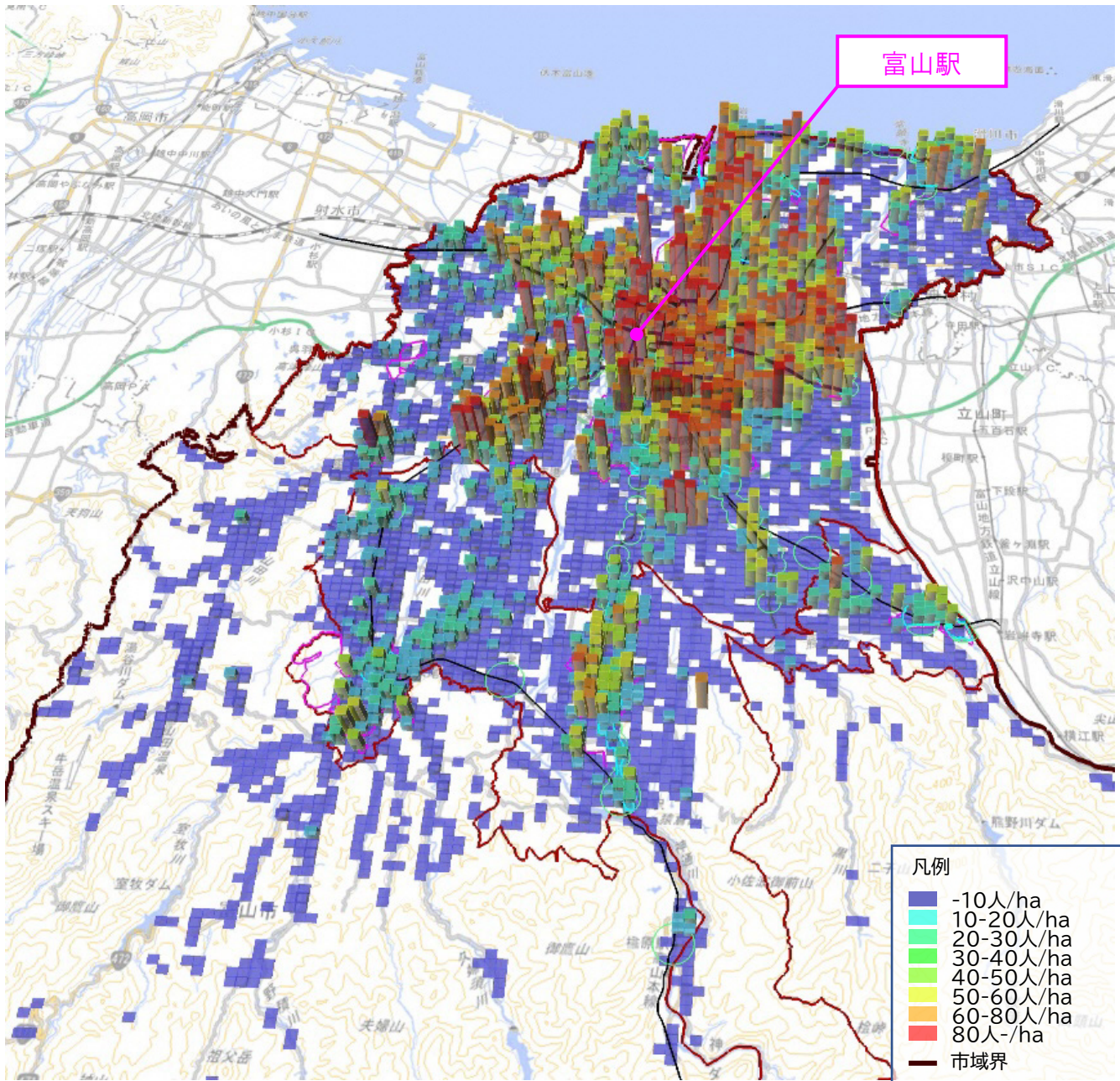


出典:富山市住民基本台帳人口(R5.3末時点)

# 1-2. 市街地の特性

主に富山駅を中心とした地域に人口が多く分布し、人口密度が高くなっています。市南部の地域である八尾地域や大沢野地域、大山地域では、居住地が低密度に分布しています。

## 人口の分布



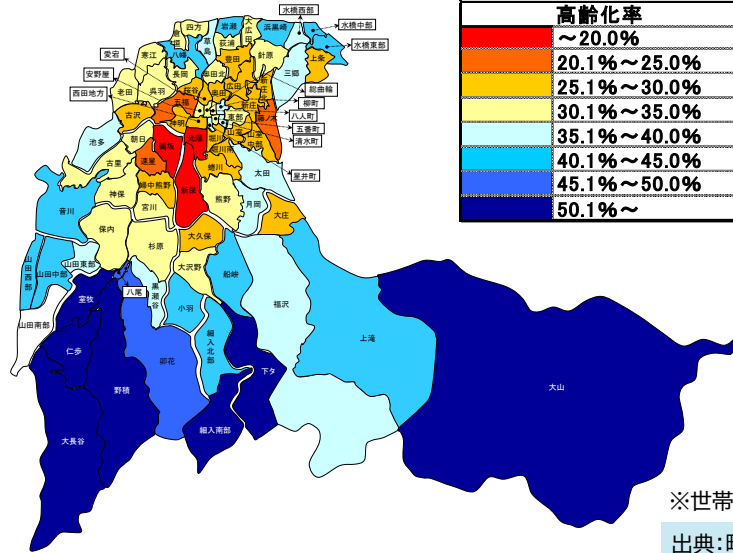
出典：富山市住民基本台帳(R4.6時点)

# 1-2.市街地の特性

## (2)高齢化率

地域別高齢化率をみると、富山駅等が立地する市の中心地では20～30%となっています。一方、大山地域や八尾地域等の市の南部などは、高齢化率が50%を超える地域も散見されます。

### 地域別高齢化率



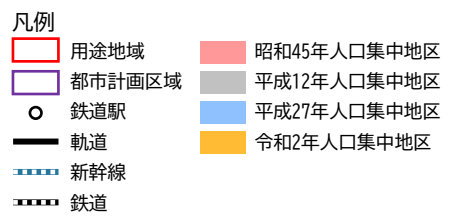
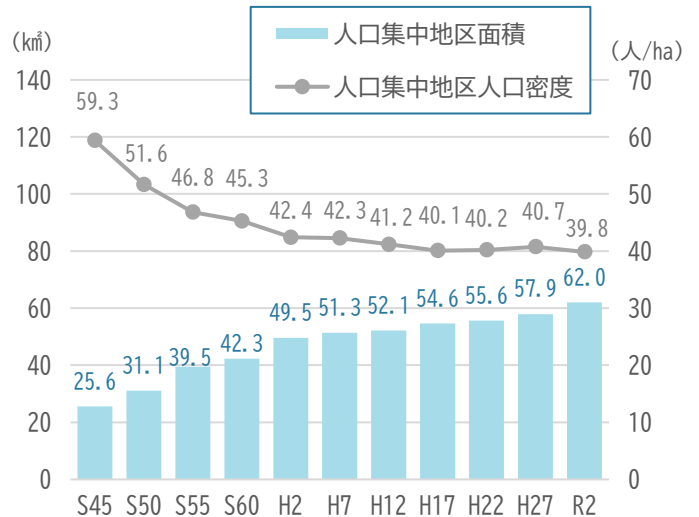
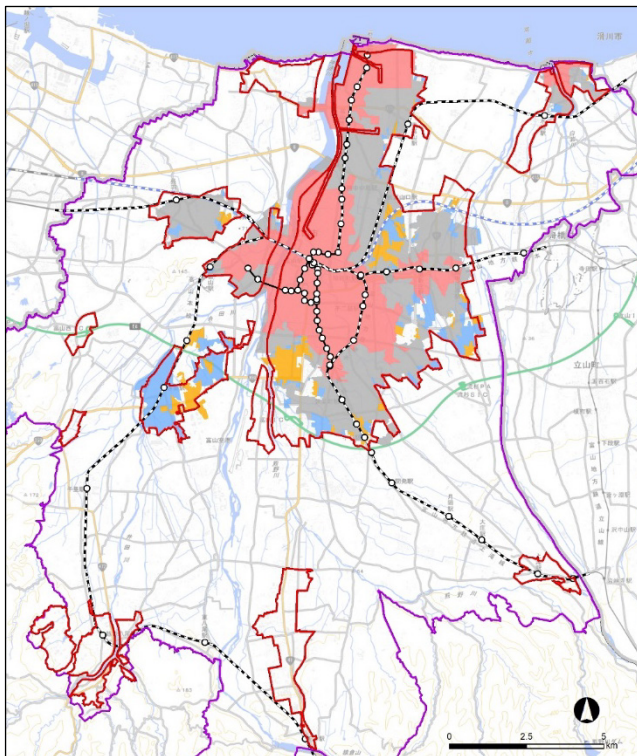
## (3)人口集中地区

人口集中地区の面積の推移として、昭和45年～令和2年の過去50年間で約2倍に拡大しています。一方、人口集中地区の人口密度は、昭和45年～令和2年の過去50年間で約3割の減少となっています。

※人口集中地区：「原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上(1ha当たり40人以上)の基本単位区等が市区町村の境界内で互いに隣接」して「それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域」に該当するエリア

### 人口集中地区の変遷(昭和45年～令和2年の比較)

### 市街地の面積の拡大と人口密度の推移



出典：国勢調査(R2)

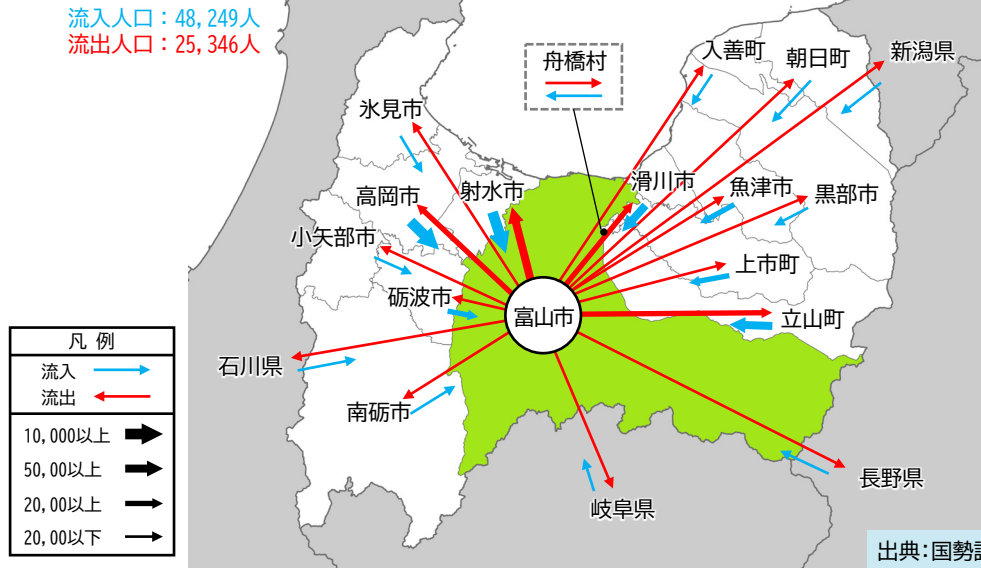
# 1-2.市街地の特性

## (4)移動特性

通勤・通学者の流入人口、流出人口の総数と構成比をみると、流出入ともに、高岡市、滑川市、射水市、立山町の比率が高くなっています。

流入人口と流出人口を比較すると、上記4市町をはじめ県内各市町村からの流入人口が多くなっています。

### 富山市に関連する通勤・通学流動

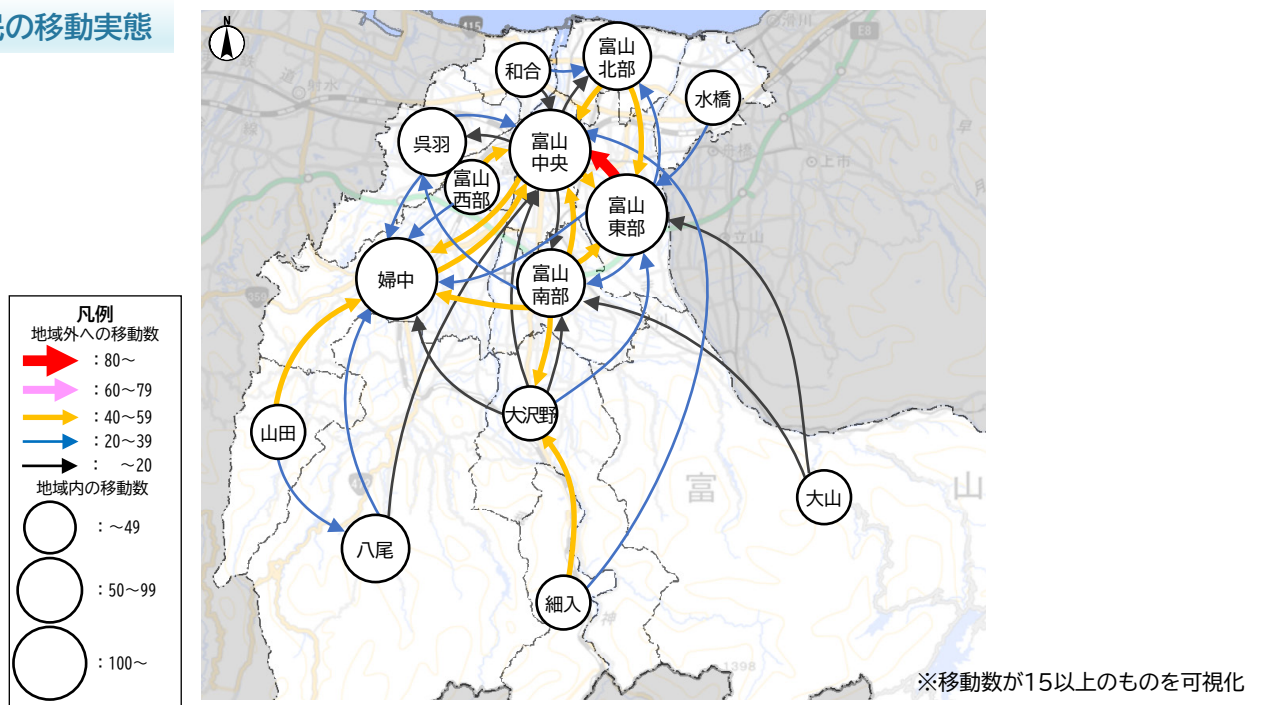


市民の移動実態(令和4年公共交通に関する市民意識調査)としては、概ね全ての地域で、地域内での移動が最も多くなっています。

地域外への移動では、富山中央地域への移動が多く、特に富山東部地域からの移動が顕著となっています。

また、八尾地域や山田地域、細入地域などにおいては、婦中地域や大沢野地域などへの移動も一定程度みられます。

### 市民の移動実態



出典：令和4年公共交通に関する市民意識調査(平日と休日の最も多い移動先の合算値)から作成